

農業農村の有する多面的機能を継承する研修会に地域リーダーら 823 人



平成 29 年 11 月 8 日（水）、山口県総合保健会館において「村は住む人のほんのわずかな気持ちから、美しくもまづくもなる」をテーマに「平成 29 年度農村環境の未来を考える研修会 Vol. 10」が開催されました。（テーマ・・・明治時代の民俗学者 柳田国男が述べた言葉）

このシンポジウムは、毎年 11 月中旬に農業農村の有する多面的機能を次世代に継承するとともに、活動組織の関係者の知識と技術のステップアップを目的に開催しており、823 名が参加しました。

主催者である山口県日本型直接支払推進協議会の北村経夫会長の「多面的機能支払交付金を活用して農業農村の持続的発展を図っていただきたい」とのメッセージを京野充真副会長（JA 山口中央会 農業振興部長）が代読しました。

オープニングでは、若さと迫力ある「和太鼓集団山城組 空（そら）」の若者たちに、躍動感あふれる和太鼓の演舞をご披露いただきました。

それから、「この 10 年で農村はどう変わったか」と題して、柵木 環（ませぎ たまき）山梨県副知事（前農林水産省農村振興局整備部農地資源課多面的機能支払推進室長）、続いて、河内山哲朗松下政経塾塾長（前山口県柳井市長）に「不利な条件を乗り越えた国や地域、人々に学ぶ—地域再生の処方箋」と題してご講演をいただいたところです。

また、本年度の推進協議会会長賞には、地域が一体となって地域資源の保全に取組み、県内初の農地大区画化・汎用化の 2 次整備に着手した下関市の王喜農地環境保全会が受賞しました。

そして、平成 30 年 9 月 14 日（金）から 11 月 4 日（日） 52 日間にかけて、山口きらら博記念公園を会場に開催される山口ゆめ花博（第 35 回全国都市緑化やまぐちフェア）の概要説明もあつたところです。この研修会を契機に、県内各地で農地等の保全活動がますます発展することを期待しています。



編集・発行: 〒753-0079 山口市糸米 2-13-35 (県土連ビル 2F)

山口県日本型直接支払推進協議会

TEL 083-933-0755

FAX 083-933-0756

<http://www.tamenteki-yamaguchi.jp>